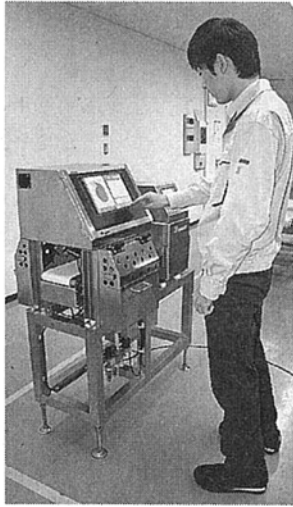


異物検出、高速・高精度に

食品包装のシール部

異物検査機製造のシステムスクエア(新潟県長岡市、山田清貴社長)は食品など包装したときにシール部分に間違っ入り込んだ異物を高速・高精度で検査できる新型装置を開発した。当社によると、精度や速度とも実用レベルに高めた包装後の検査装置は初めて。6月中に販売を始め、総菜や米菓メーカーなど食品工場向けに売り込む。



システムスクエアの異物検査機

システムスクエアが新型機

総菜・米菓向け開発

包装のシール部分に食品のかけらなどの異物が入り込むと、菓子などの食品の鮮度が落ちたり、

見た目が悪くなったりする原因となる。検査のニーズはせんべいなど特に乾燥した食品に多い。開発した検査機「SL1000」は金属以外の包装検査で使う。新開発した検知技術を近く特許を申請する。目で見て分からないような0.1ミリ程度の異物を検出できる精度があるという。包装材料に使われる塗料によっては検出感を調整する必要がある。シール部分の異物と同時に欠けや割れ、空袋などの商品不良も検査できる。検査の処理速度は最大毎分700個程度で、製

品10個の検査時間は1秒足らずで済む。金属の異物を取り除く金属検出機と連動させて使う場合、毎分400〜500個の処理速度で検査できる。不良品はエア選別機が自動的に生産ラインから取り除く。検出感度などを簡単に調整できるように使いやすさに工夫を凝らした。

供給する製品群は①既存の生産ラインに据え付ける異物検査機本体のみ②単体のコンベヤー付き③金属検出機との一体型の異物検査機④の3パターンを想定している。販売価格は異物検査機単体で360万円(税抜き)。本体一体型でコン

ベヤーが付くと400万円(同)。さらに金属検出機を付けると460万円程度。2年後に100台程度販売し、3億円程度の売り上げを見込む。

同社の主力製品は金属検出機とX線異物検査機で、2011年3月期の売上高は約19億円。同社は10社程度の海外販売代理店を活用し、海外売上比率は20%近い。海外では同様の製品がないためニーズが高いという。「来年にも中国などで異物検査機の販売を始める」(山田社長) 考えだ。